

新旧役員懇談会を開催

退任役員に感謝状を授与

6月28日午後5時より、前橋市・群馬ロイヤルホテルにおいて、新旧役員懇談会を開催した。

これは、5月31日の第57回通常総会において、任期満了による役員改選が行われたことを受けて開催されたもので、新旧役員の初顔合わせとなった当日は、来賓を含め40名が出席した。

5月の総会では、金子会長とともに副会長4人が再選され、新たに11人が役員として加わる一方、10人の役員が退任し、役員の総数は44人となっている。

懇談会では、初めに金子会長が挨拶を行い、長年にわたって本会



挨拶する金子会長

事業運営に尽力いただいた退任役員に対する感謝の意を述べた。

次いで、感謝状の贈呈と記念品の授与が行われた後、退任役員を代表して、14年間にわたって役員

を務めた永井前副会長が返礼の挨拶を行った。



永井前副会長

続いて、来賓を代表して、群馬県産業経済部産業政策課長戸塚俊輔氏が挨拶を行った後、本会新役員が紹介された。

次いで、群馬県信用保証協会池田秀廣氏の音頭で乾杯となった。

和やかな歓談の後、商工中金前橋支店長中島潔氏が中締めを行った。

なお、多年にわたり本会役員として県内中小企業振興に尽力され、今回勇退された役員は次のとおり。

○副会長

永井克弘氏

(群馬県ビルメンテナンス(協))

○常任理事

糸井良一氏

(群馬県商店街(振)連合会)

中西 保氏

(群馬県管工設備(協))

荻野 高氏

(高崎機械工業(協))

○理事

光山 紘氏

(群馬県鍍金(工))

石関勝美氏

(群馬県不動産事業(協))

小泉俊夫氏

(群馬県造園建設業(協))

高橋恒夫氏

(群馬県中古自動車販売(商工))

○監事

布施光一氏

(群馬県紙器段ボール箱(工))

猪俣 健氏

(群馬県税理士(協))

地区別組合理事長懇談会を開催

業界リーダーが忌憚のない意見交換

6月20日（高崎市、ホワイトイン高崎）、25日（桐生市、プリオパレス桐生）、7月3日（前橋市、前橋マリーキュリーホテル）、4日（館林市、ジヨイハウス）の計4日間、県内各地の組合理事長等の業界リーダーが出席し、地区別組合理事長懇談会を開催した。



金子会長

当日は、業界の課題、組合運営、本会に対する意見要望等に関する情報交換を行った。各会場では、県産業経済部の産業政策課、商政課から戸塚課長、金井課長等のご臨席を頂くとともに、金子会長も出席した。

各日とも、金子会長が挨拶を行った後、中山専務理事が座長となり懇談会が行われた。

まず、産業経済部が群馬県の産業経済施策を説明。次いで本会より、今後の主要行事予定、ものづくり中小企業・小規模事業者試作



戸塚俊輔産業政策課長



金井豊幸商政課長

開発等支援事業等の本会事業について情報提供を行った後、意見交換が行われた。

意見交換では、業界の現状、組合事業、海外展開、異業種間連携、金融円滑化法終了の影響、アベノミクス、消費税引き上げ、後継者確保、中央会の役割、中央会や行政への要望等、話題は多岐にわたり、組合リーダー・県・本会の間で活発な議論が交わされた。

提案された忌憚のない様々な意見を受け、県が具体的対応策を説明し、金子会長が総括を行った。

群馬県給食協同組合連合会

「価値」で選ばれる醤油造りを目指して

第42回通常総会・講演会開催

群馬県給食協同組合連合会（竹澤博会長、会員4組合）は、6月14日、伊香保町・ホテル木暮において第42回通常総会を開催した。

竹澤博会長を議長に、議案の審議がなされ、事業報告・決算、事業計画・収支予算、経費の賦課・徴収方法、借入金残高の最高限度、役員退職慰労金支給が満場一致で原案通り可決承認・決定された。また、総会終了後理事会が開催され、竹澤会長退任に伴う会長選任が行われ、新会長に木島健司理事（東毛福祉事業（協））が選任された。



木島新会長

その後、「老舗企業の経営革新」をテーマに創業180年の歴史を誇る（株）有田屋（中小企業ぐんま5月号表紙で紹介）代表取締役湯浅康毅氏より講演が行われた。概要は以下のとおり。

醤油はおよそ800年前、鎌倉時代に生まれた、大豆、小麦、食塩を主原料とした発酵調味料である。発酵の世界は、相乗効果によって複雑に絡み合って臭みを消して食べ易くしたり、味わいを深くする。「納豆」に「醤油」をかけることはとても理にかなっている。



湯浅康毅氏

安中が宿場町で情報・文化が行き交い、災害にも強いという土地柄であったこともあり、有田屋は安中で商売を始めた。創業180年の歴史の間には、新島襄との交流があったため、新島襄の手記には「湯浅」の名が出てくる。また、その妻の八重が当社に宿泊したという記録も残っている。

家業に入り仕事に没頭したのも、醤油づくりの将来性に常に不安を感じていた。そんな時、九州のデパートで自社製品を販売する機会を得た。しかし、甘い醤油を好む地域であるため、自社の醤油は殆ど売れず辛い思いを味わった。販売開始4日目、試食したお客様から「懐かしい思い出が蘇ってきます」と言う感想を頂いた。そのお客様の話を聞いてみると、幼少時代を安中市で過ごしており、醤油を舐めたら昔懐かしい風景などが蘇ってきたという。このお客様の何気ない一言で、醤油の一滴には、こんなパワーがあるということを知り、醤油づくりを続けることへの迷いが一瞬で消えた。

材料と作り方はとてもシンプルだが、作り手の想いや風土が商品の特徴として現れる。それが醤油づくりの醍醐味であると痛感し、「意味あるものづくり」を目指そうと強く誓った。価格がお客様の選択基準になるのではなく、価値で選んでもらえる商品づくりを行っていききたい。また、積極的な情報発信に努め、良いものをお客様に伝えていくことが、造り手の責務であると考えている。

ものづくり補助金説明会

～ 第2次公募に向けて県内2ヵ所で開催 ～

6月18日、午前10時30分より前橋市・群馬県公社総合ビルで、午後2時30分からは太田市・太田商工会議所会館にて、「ものづくり中小企業・小規模事業者試作開発等支援補助金」の第2次公募説明会を開催した。

群馬県工業振興課の協力により共催で開催した両会場は、応募を予定する大勢の中小企業経営者の熱気で溢れた。

同補助金は、緊急経済対策の一環として、平成24年度の補正予算で打ち出されたもので、ものづくり中小企業・小規模事業者が実施する試作品開発や設備投資に要する経費を補助することにより、その競争力強化を支援し、即効的な需要の喚起と好循環による経済活性化を目的としている。

総額1007億円が全国中央会に基金造成され、中小企業庁より地域事務局として採択された各都道府県中央会が、申請受付から補助金交付に至るまで一連の業務を実施する。

原材料費、機械装置費、外注加工費、直接人件費等、試作開発や設備投資に係る経費について、1000万円を上限に対象経費の

3分の2が補助されるとあって、県内中小製造業者の関心は非常に高く、既に締め切られた1次公募では全国上位となる225件が採択された。これら採択事業者に対しては、既に補助金説明会を開催し、順次交付決定が行われている。

2次公募説明会では、地域事務局の業務を行う群馬県中央会を代表して、中山専務理事が挨拶。その後、本会より公募要領に沿って応募申請に関する説明、群馬県工業振興課からは、事業計画書の組み立て方を中心に応募申請書の作成支援について、それぞれ説明が行われた。

その後の質疑応答では、申請方法や補助対象経費等に関する質問が矢継ぎ早に出される等、時間を超過して熱心な質疑応答が交わされた。1次公募で残念ながら採択を逃した事業者による再チャレンジ参加もあり、両会場とも、県内ものづくり中小企業の熱い思いに満ちた説明会となった。

第2次公募は7月10日で締め切られ、8月下旬を目途に採択が行われる予定であり、多くの事業者の採択で、県内中小企業の一層の活性化が期待される。